



■小児外科医長 中原 康雄

当院の小児外科は、1974年に開設され、40年以上岡山県周辺地域の外科手術を必要とするお子さんの治療を担ってまいりました。全国の小児外科を有する施設の中でも、長年に渡る多くの実績を有する施設の一つであると思います。小児外科で扱う手術は、鼠径ヘルニア・停留精巣・虫垂炎などの一般的で数の多いものから、特殊な先天奇形や小児がんなどの複雑なものまで多岐に渡ります。ただ手術の種類や難易度にか

かわらず、自分の子供に手術が必要ということは、そのご家族にとって一大事です。主治医を信頼して自分の子供の命を預けていることになります。当院の理念は“今あなたに信頼される病院”ですが、ご家族に信頼していただき、治療を任せいただけるような小児外科チームであることを目標に、診療を行っております。

## スタッフの紹介

令和2年度は、小児外科医師5名(中原、高橋、大倉、石橋、花木)とレジデント1名(浮田)の6名が常勤として対応しております。加えて青山興司先生(名誉院長)と後藤隆文先生(前副院長)にも週に1-2回お手伝いいただいております。

青山興司名誉院長 高橋雄介 中原康雄 大倉隆宏 後藤隆文前副院長



花木祥二郎

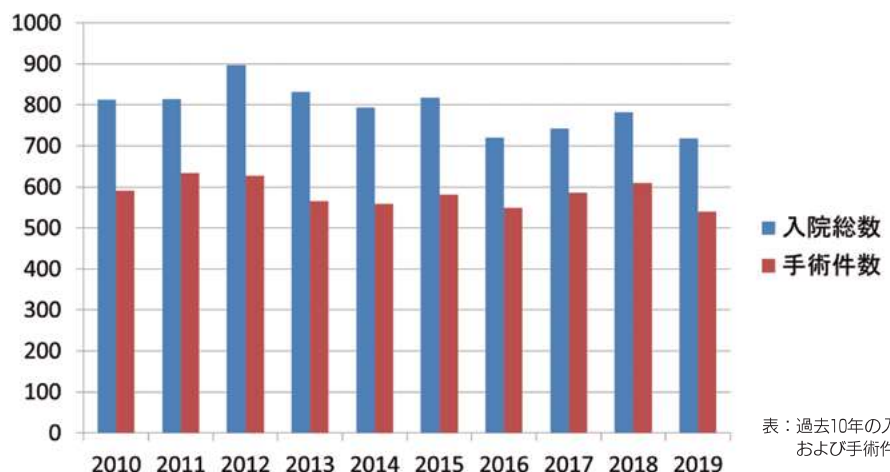
浮田明見

石橋脩一

- <医 長> 中原 康雄(小児外科指導医・専門医、  
外科専門医、小児がん認定外科医、  
小児泌尿器科学会認定医)
- <常勤医師> 高橋 雄介(小児外科専門医、外科専門医、  
移植学会移植認定医、  
小児泌尿器科学会認定医、  
臨床腎移植学会認定医)
- 大倉 隆宏(小児外科専門医、外科専門医)
- 石橋 脩一(外科専門医)
- 花木祥二郎(外科専門医)
- <レジデント> 浮田 明見
- <非常勤医師> 青山 興司(名誉院長)
- 後藤 隆文(前副院長)

## 診療の特徴

当科は急患もお断りすることなく、24時間365日対応しております。年間の小児外科手術件数は500~600件であり、中四国で最も多い施設です。



表：過去10年の入院総数および手術件数

## 診療の特徴

### 新生児外科疾患

新生児の消化管疾患(消化管の閉鎖、機能異常など)、泌尿器系疾患、胸部疾患など、多岐にわたる手術治療を行っております。最近では出生前に異常を指摘されることが増えておりますが、その場合は、産婦人科・新生児科と連携し、出生前よりご家族に病気についての理解をしていただき、出生後の治療につなげていくようにしております。複雑な先天奇形の修復手術は新生児期から段階的に行う必要がある場合も少なくなく、長期のフォローを要します。当院では長年に渡る数多くの新生児外科疾患の治療経験という強みがあり、それに基づき最良の治療選択を考えております。横隔膜ヘルニアなどの高度な集中治療管理が必要な疾患は、新生児科の協力のもと治療を行っております。

### 肝胆道疾患

新生児、乳児期早期の便の色の異常から、胆汁うっ滞性疾患の鑑別診断を行っております。胆道閉鎖と診断された場合は、早期に根治術を必要とします。また胆道拡張症に関しまして、最近20年間で37例の治療を行っております。

### 小児悪性腫瘍

小児がん認定外科医を有し、神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫に代表される固形腫瘍の治療を研究グループのプロトコールに準拠して行っております。肝芽腫や腎芽腫の治療成績は非常に良好ですが、近年では高リスクの神経芽腫も他施設と連携することで向上してきております。

## 臨床教育他

小児外科を研修する若手外科医が小児外科専門医を取得するためには、まず外科研修を行い、外科専門医を取得する必要があります。そのうえで、十分な臨床、手術経験と論文発表を有し、筆記試験に合格すれば専門医を取得することができます。当科では臨床経験は問題なくクリア可能ですが、医療の知識、技術だけでなく、若手医師は人間的にもご家族の信頼に足る医師となるべく、研鑽をつんでいただくこととなります。また当科医師はNPO法人中国四国小児外科医療支援

### 泌尿生殖器疾患

閉塞性尿路疾患、膀胱尿管逆流症の他、尿道下裂や総排泄腔異常などの複雑な先天異常の治療に力を注いでおります。総排泄腔異常に関しては、国内でも治療経験の豊富な施設の1つで、その最良の治療法の確立を目的として、2021年に第1回総排泄腔異常シンポジウムを岡山で開催する予定です。

### 腎移植

当科では小児腎不全外科診療として腎移植も行っており、2005年から現在まで16例の小児腎移植を行っております。都立清瀬小児病院(現都立小児総合医療センター)で腎移植診療を学んだ後藤前副院長と、東邦大学で腎移植を学んだ高橋の2名が主に腎移植診療に従事しております。現在日本では年間100例前後の小児腎移植が行われておりますが、西日本には低体重児や排尿機能異常合併症を持つ患者さんなど、治療困難な小児腎臓病患者さんに高度な小児腎移植診療を提供できる施設が少なく、東京まで移植を受けにくい小児腎臓病患者さんも多数いらっしゃいます。また、小児の脳死ドナーから小児患者への優先的な提供がなされるようになり、小児腎臓病患者さんが献腎移植を受けるチャンスが増えており、献腎移植登録を希望される患者さんには登録をお勧めしたいと考えております。小児科清水先生、腎臓移植外科藤原先生と協力し中四国をはじめ、西日本の小児腎臓病患者さんに高度な腎移植を提供できるよう、引き続き尽力いたします。

機構に所属し、中国四国地方の主要な施設の小児外科と連携し、研修を行っております。この機構に属す医師の多くは、欧米、アジアの小児病院への留学もしており、今後も若手医師達には、積極的に海外留学を勧めていくつもりです。また以前から行っている東南アジア諸国での手術協力も継続して行っております。

## おわりに

「医師たるもの24時間365日、患者さんのためにあれ。小児外科医の生活は患児のためにあるべきであり、自分を中心にするような小児外科医なんかはだめだよ。」とかいった考えは、もはや古臭い時代になりました。が、我々、まあまあ、そう思っています。

小児外科に相談したいと思われる患者さんがおられましたら、いつでも対応しますので、よろしく願いいたします。

